

全国のTOHOシネマズで拡大上映

ドリパスの実績をバネに奇跡の復活再上映が実現！
4/17～6/25まで国内各地で大好評を博しました。



「野球部員、演劇の舞台に立つ！」を見た。ずっと気になっていたが、ようやく見る事が出来た。コロナ禍の中、劇場には15人くらいしかいなかったが、上映後は心温まる幸せな気持ちで席を立った。八女弁の映画を初めて見た。ふるさとを長く離れた者にとって、幼い頃に話した言葉には特別な思いがある。照れ臭く

映画新聞

MOVIE NEWS
8月31日(月曜日)

上映会主催者募集!
あなたの街で上映会を開催しませんか? 詳しくは下記までお問合せください。上映素材は通常版、英語字幕版、バリアフリー版(日本語字幕・音声ガイド付き)のご用意もございます。

映画「野球部員、演劇の舞台に立つ!」製作配給委員会
〒834-0047 福岡県八女市福富111-1
電話/FAX: 0943-24-9061
メール: koushien-642@hi3.enjoy.ne.jp
発行人: 鈴木一美
編集: 白石ルリ子、高尾美由紀、仁田原陽子、福富朋子

恥ずかしい思い出も、タイムカプセルのように山ほど話まっている。そうした言葉で演じられるドラマを見て、青春時代の友情や恋や夢や挫折など、たくさんのお話を思い出した。

もっとも印象的なシーンは、レギュラーをはずされたエースが悔しさを抱えて夜の町をさまよひ、明け方に寮に戻って相棒のキャッチャーに迎えられるシーンである。エースはその直前にも舞台の音響を担当する友人と出会い、これまで馬鹿にしていた彼を新たな目で見る事が出来るようになる。こんな風に仲間たちみんなの成長が、無理なく説得力豊かに描かれているからだろう。劇場を出る時には、「俺も頑張ろう」という清々しい気持ちになった。繰り返された脚本やシナリオで効果的な音響、個性的な役者たちなど、映画として



安部龍太郎
福岡県八女市(旧黒木町) 出身
2013年「等伯」で第148回直木賞受賞

その日から17年後。2020年12月26日、九州各県の教職員を中心とした研究会が西南学院大学であり、「野球部員、演劇の舞台に立つ!」の記念上映と田原・竹島記念講演会を開催しました。演題は「大人の役割」。年の瀬の忙しい時期でしたが、300名近い方々が集まり、立ち見も出るほど大盛況でした。

はじめて、「野球部員、演劇の舞台に立つ!」のモデルとなった田原照久さんや原作者の竹島由美子さんと出会った時も、私の「直感」は、ビビーンと信号を私の脳内に送りました。「この人たちは、人を感動させる熱い何かを発している!」と。

私は元教師。42年間、教壇に立ち続けました。振り返ってみるにつけ「さして、教師としての資質や力量はなかったけど、「直感」だけはかなり優れていたな」と自惚れています。

2人が交互に軽快なトークを繰り広げ、会場は笑いや感嘆の声で包まれました。参加したすべての方に、「一人は変わる」「教育は素晴らしい感動を生み出す」との確信を与え、彼らの心を騒がせ、熱くしました。

2017年1月の映画製作マスコミ発表後、クラウンも3月末に正式決定し、高校生役の福岡オーディション、八女オーディションなどバタバタと進みました。製作スタッフとロケ地候補となった場所の確認を行ない、意に沿わない場所があれば他の場所を捜し回ったりしました。演劇部の練習場は旧白木小学校の体育館がすでに決まっていたので、その他八女中央大茶園、イチゴのハウス、電照菊のハウスなど決まっていた中、学校のシーンについては、八女農業高校の廣松校長先生の英断により、校舎の使用と生徒たちのエキストラ出演の協力をいただけたのは本当にありがたかったです。



12/26 福岡県西南学院大学にて九州地区民間教育研究団体連絡協議会主催



谷口誠一
九州民間教育研究団体連絡協議会 会長

祝 2019年度全国映連賞特別賞受賞!

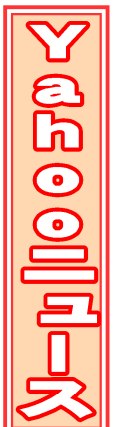


2019年度全国映連賞で、中山節夫監督がこれまでの功績に関して特別賞を受賞されました! 全国映連(映画鑑賞団体全国連絡会議)は、日本映画の発展を願って活動している映画鑑賞団体の全国連絡組織です。新型コロナウイルスの影響で授賞式は中止になりましたが、賞状を頂きました。中山監督からは「貴重な賞を頂けて大変恐縮です。今後の励みになります。」と喜びの声を頂きました。

取材を受けて、映画、記事と子供たちに、また若者の素晴らしさを取り上げて頂いて感謝しかありません。子供、大人に関わらず、人と人が成長させてもらうきっかけは、まさに出逢いであり、その瞬間、瞬間の後悔の無い生き方なのかなと感じさせられました。本気だからこそ、成功も失敗も生まれるからこそ財産になる。この経験を次の子供たちに伝えていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

野球部監督 西村慎太郎

Yahoo!ニュースの個人オアサー室井昌也さんが映画撮影地八女市に、原作本の取材に来て下さいました。QRコードを読み取ってお読み下さい。



ラーメン屋台のおやじで出演する平井靖文

撮影も順調に進んでいた5日目の朝、助監督から方言指導をやってくださいとの依頼があり、急ぎ八女弁の方言指導をお願いになりました。毎日朝から撮影終了まで1日中現場に張り付いていなければならなくなりました。宮崎美子さん、宇梶剛士さん、林遣都さんに方言指導させて頂いたのはいい思い出になりました。

一般エキストラの募集も始まり、そんなこんなであったという間に、製作スタッフ、高校生キャスト、支援する会が一堂に介して3月29日成功祈願祭、そして30日のクラウンクインを迎え、ついに映画製作のカメラが回り始めたのです。撮影初日に、私の出番であるラーメン屋台のシーンの撮影があり、生まれて初めての体験に、とても緊張したことを今でもよく覚えております。

【映画製作に関わって】
軌跡からの奇跡⑤
ついに夢叶う!

主婦2人が主催した上映会

八女市黒木町南仙荘にて



仁田原陽子さん(左) 古賀真理さん(右)

2019年11月30日、昭和レトロな雰囲気の福岡県八女市黒木町「南仙荘」にて黒木上映会を開催しました。当日は矢部川の清流と緑豊かな山々、そして玄関には鮮やかな紅に色づいた紅葉…そんな最高のロケーションが、秋晴れの空とともに、もてなしてくれ

ました。振り返れば6年前、公私ともにお世話になっていた仁田原陽子さんより、八女を舞台にした映画が作られると耳にして、娘の役もご役を頂き、映画に出演させてもらいました。私自身も映画を支援する会の活動を通じて、撮影時のお手伝い・映画のPR活動・なによりチケットの販売と、ある意味非常に日常的な日々を体験することが出来ました。

黒木町は八女市の中でも奥八女山間部であり、交通の便も決して良いとは言えません。映画館へ足を運ぶのはもちろんのこと、八女市街へ行くことも難しい高齢者の方々や子どもたちがたくさんおられます。この映画を観たいと思っても行けなかったという声をよく耳にしておりましたので、地元で上映会を開くことにしました。…とはい

え、私と陽子さん2人の個人での主催は初めての経験でした。多くのお客様を集める為に、知人・友人、映画を観に行きたくても行けなかったという方たちへの声掛けを積極的に行いました。チラシを作成し、黒木町の全戸回覧板に掲載させて頂き、陽子さんがご活躍のラジオ「FM八女」でもアナウンスしてもらい周知につとめました。

今回は、10時・13時・18時の3回上映となりました。これが多世代の来場に繋がったと思います。南仙荘を拠点として活動されている地域おこし協力隊の染井さんのご協力のもと、ボランティアスタッフで朝早くから会場をセッティングしました。50席ほど準備した席が3回の上映とも満席となりました。中には鹿児島や筑紫野市からお越しの方もいらっしゃいました。地元の高校野球部の少年達も来てくれました。今回、多くの皆様のお力を借りて企画した上映会でしたが、小ぢんまりとした上映会でも観る人には大きな感動は伝わるのだと思いま

した。この場面から野球部全体の変化が見られ、野球と演劇という一見繋がることのないものが、大切なことと気付くこと、この二つが繋がったように感じました。世界にはそれぞれ価値観の違いから争いが起こることもあります。しかし、大切なもの、「人へのおもいやり」「やさしさ」等への思いは一つです。この映画を鑑賞し、私は、このような事を感じました。

最後に「三田 結菜」役を演じた「田中 奈月」さんは本校(三井中央高校)の卒業生であり、私達の先輩でもあります。歓談会でのお話の中で、田中先輩は高校当時から将来の夢を構築されているとお聞きしました。また、将来のことを模索中の私は、お話を伺ってとても参考になりました。

田中先輩のような卒業生がいることとても誇りに思い、また尊敬もしています。これからのますますの活躍をお祈りいたします。

田中奈月 母校に凱旋 三井中央高等学校

映画「野球部員、演劇の舞台に立つ!」を鑑賞して

2年3組 亀井 紀佳



2/21 3年生を送る会にて 左から) 渡辺さん・生徒会長 古賀さん・田中奈月さん・大山明校長先生と生徒の皆さん

私がこの作品を観賞して最初に感じたことは、野球部員が演劇部に入学する前の試合の場面です。野球部に限らず、スポーツは試合をする上で、皆力を合わせるチームワークが根本的なものだと思っています。しかし、この試合では、部員同士のチームワークというものが一切見られず、部員全員が「自分が打てば」「抑えることができれば勝てる。」と自分の実力を過信するあまり、仲間を信頼することや認める力が欠けていると思えました。

一番印象に残っている場面は、野球部員が演劇部に入学し、素振りをしている中で「その感情、違っんじゃない。」という言葉を指摘し、「一緒になって台詞の練習相手になろう」としている様子で

観に行きたくても行けなかったという方たちへの声掛けを積極的に行いました。チラシを作成し、黒木町の全戸回覧板に掲載させて頂き、陽子さんがご活躍のラジオ「FM八女」でもアナウンスしてもらい周知につとめました。今回は、10時・13時・18時の3回上映となりました。これが多世代の来場に繋がったと思います。南仙荘を拠点として活動されている地域おこし協力隊の染井さんのご協力のもと、ボランティアスタッフで朝早くから会場をセッティングしました。50席ほど準備した席が3回の上映とも満席となりました。中には鹿児島や筑紫野市からお越しの方もいらっしゃいました。地元の高校野球部の少年達も来てくれました。今回、多くの皆様のお力を借りて企画した上映会でしたが、小ぢんまりとした上映会でも観る人には大きな感動は伝わるのだと思いま

した。この場面から野球部全体の変化が見られ、野球と演劇という一見繋がることのないものが、大切なことと気付くこと、この二つが繋がったように感じました。世界にはそれぞれ価値観の違いから争いが起こることもあります。しかし、大切なもの、「人へのおもいやり」「やさしさ」等への思いは一つです。この映画を鑑賞し、私は、このような事を感じました。

最後に「三田 結菜」役を演じた「田中 奈月」さんは本校(三井中央高校)の卒業生であり、私達の先輩でもあります。歓談会でのお話の中で、田中先輩は高校当時から将来の夢を構築されているとお聞きしました。また、将来のことを模索中の私は、お話を伺ってとても参考になりました。

田中先輩のような卒業生がいることとても誇りに思い、また尊敬もしています。これからのますますの活躍をお祈りいたします。

田中先輩のような卒業生がいることとても誇りに思い、また尊敬もしています。これからのますますの活躍をお祈りいたします。



八女市黒木町南仙荘にて上映を待つ皆さん 後方には映画で使用されたユニフォームも

した。今回の上映会に快くお手伝いご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

ついに山陰地方で上映決行

2月19日水曜日に松江市立第一中学校にて、上映会を開催してもらいました。上映後、担当の先生が生徒さんに挨拶の方をお話しをさせていただきましたが、第一声「若いっていいですねえ」としみじみ言っておられたのが実感もついている感じでした。語りかけられた当の若い中学生さんたちには、「若いっていい」というのがどういふことか、まだ本当にはわかるはずがありませんが、これから中学校を巣立って、次の路を進む3年生の皆さんへのエールになる

機会ももっとあるといいと思います。

島根県で発足28年の映画鑑賞団体

1月18日、島根県松江市市民活動センター交流ホールにて、「松江キネマ倶楽部」主催で映画上映と中山監督の対談が行われました。

でも高校生(とくに高校球児)に観て頂きたい映画だと感じました。2時からの回では高校球児が20名ほど鑑賞していました。

林遣都君目当てで来ましたが、意外に「展開が早く、分かりやすく、さわやかな印象が残るよい作品でした。若い子たちの役者もよかったです!中山監督のお話もしみじみ面白かったです。もっと聞いていたいくらいでした。」

田舎(地方)の高校が身近で世代を超えて共感できる話でした。独りよがりになってしまったり、考えの違う者同士が対立したりするけれど、一方的にいじめられたり陰湿なところがなく気持ちよく観られました。学校の教育ばかりが教育ではないなどつくづく感じました。「保護者、教員、地域が一体となって」とよく言われますが、在学中のみならず、その先もつながっていったら、監督さんの話に出てきたような学びなおし

懐かしいと思うシーンや「漢字」のくだり等笑えるシーンもたくさんあり、とても面白い映画を観ていれば野球以外のことにも幅広く興味を持ち、さらに野球への取り組み方も変わっていったらいいと思います。



松江キネマ倶楽部の運営委員 森昌義さん(左)と対談する中山節夫監督(右)

高校野球を経験した者として、懐かしいと思うシーンや「漢字」のくだり等笑えるシーンもたくさんあり、とても面白い映画を観ていれば野球以外のことにも幅広く興味を持ち、さらに野球への取り組み方も変わっていったらいいと思います。

懐かしいと思うシーンや「漢字」のくだり等笑えるシーンもたくさんあり、とても面白い映画を観ていれば野球以外のことにも幅広く興味を持ち、さらに野球への取り組み方も変わっていったらいいと思います。

懐かしいと思うシーンや「漢字」のくだり等笑えるシーンもたくさんあり、とても面白い映画を観ていれば野球以外のことにも幅広く興味を持ち、さらに野球への取り組み方も変わっていったらいいと思います。

懐かしいと思うシーンや「漢字」のくだり等笑えるシーンもたくさんあり、とても面白い映画を観ていれば野球以外のことにも幅広く興味を持ち、さらに野球への取り組み方も変わっていったらいいと思います。



1992年に発足された映画上映・鑑賞サークル「松江キネマ倶楽部」の皆さんと中山監督

購入はこちらから

原作本

主題歌CD

【原作本】
原作：竹島由美子
(定価 1,760円)

【主題歌CD】
「ユビノサキヘ」
Good Coming
(定価 1,100円)

【パンフレット】
(定価 700円)

懐かしいと思うシーンや「漢字」のくだり等笑えるシーンもたくさんあり、とても面白い映画を観ていれば野球以外のことにも幅広く興味を持ち、さらに野球への取り組み方も変わっていったらいいと思います。